

スターチス有望系統の選抜

期待される県下のオリジナル品種

1 はじめに

スターチス・シヌアータは和歌山県の主要花きの1つであり、全国一の生産を誇っているが、市販されている培養苗が高価で生産農家にとって種苗費が大きな負担となっている。しかし、培養苗で販売されている品種のほとんどは登録品種であり、育成者の許諾なしに増殖できない。

そのため、1993年度から県農協連、関係農協、農業改良普及センターとともにスターチス栽培農家の協力を得て、県下のオリジナル品種の探索、選抜に取り組んできた。ここでは、品種登録候補として期待される2つの有望系統についてその選抜経過と特性を紹介する。

2 育成経過

1994年1月24日、1994年12月9日に、印南町及び御坊市管内にあるスターチスの種子系品種栽培農家の協力を得て、暖地園芸センター、県農協連、関係農協及び日高地域農業改良普及センターのメンバーでは場巡回調査を行い、有望と思われる23個体を選抜、1994年3月及び1995年2月に選抜個体から採穂した。

これらについて暖地園芸センター及び県農植物バイオセンター(当時、アグリバイオ研究センター)で組織培養を行い、増殖、育苗した。次いで、1995年度から増殖苗を用いて試作を重ね、有望系統‘9302’及び‘9306’を選抜した。

3 主な系統特性と栽培上の留意点

‘9302’

・印南町、山下世之彦氏の‘ソピア’栽培ほ場から選抜した淡いライトブルーの系統で、従来の‘マリンプルー’に似ている。

・早生、豊産性である。

・ブラシは丸みを帯び、盛り上がっていて形が整っている。

・茎は丸軸で、翼が小さくて硬い。

・草勢が強く、草丈は低めで枝が暴れにくい。

・冷房育苗効果が高く、常温での苗管理は開花遅延の原因となるので注意する。

‘9306’

・印南町、堀池仁氏の‘ソピア’栽培ほ場から選抜した鮮明な濃青紫の系統である。

・早生。

・ブラシはやや長めで少なく、大きい。

・草丈は高く、長い切り花が得られる。

・栽培によっては、翼が大きくなることもある。

・冷房育苗効果が高く、常温での苗管理は開花遅延の原因となるので注意する。

4 おわりに

これらの系統については、それぞれの農家が県下のオリジナル品種として1997年度に出願することになっており、苗は県農協連によって生産し、各農協を通して供給することになっている。今後も、県下のオリジナル品種育成に向け、関係機関、生産農家により一層の協力をお願いしたい。(育種部 宮本芳城)

表1. 有望選抜系統の生育・開花特性

品種・系統名	抽台開始日 (月.日.)	切花開始日 (月.日.)	花 がく	色	切花長 (cm)	花房数 (房)	切花重 (g)
9302	9.12.	12.03.	ライトブルー	白	78.1	8.4	45.8
9306	9.17.	12.06.	濃青紫	白	87.6	6.8	58.2
マリンプルー	9.10.	12.03.	ライトブルー	白	76.9	8.2	43.8

注) 9302,9306は、20℃で培養、順化した展開葉5枚程度の苗、マリンプルーは購入した順化苗(展開葉6枚程度)を使用、順化後冷房:夜間15℃、昼間25℃に設定
定植:平成6年9月17日、10月末まで株養成のため花茎を除去